

「最近この子の様子がおかしい。どうしたらいい!」。上越市柴町二の塚田こども医院(塚田次郎院長)が「心の相談室」を開設して一カ月。子ども、保護者の不安と悩みを最も早く受け止められる窓口となるべく歩み始めました。

不安や悩みは 気軽に相談を

相談室は月曜午前に開いています。基本は予約制、希望により日時の変更もできます。おおむね十五歳までの子どもとその保護者を

する不安を聞いてくれる。専属の臨床心理士・野村智子さんが応じます。同院の乳幼児健診(生後一カ月)時も声

臨床心理士が個別にアドバイス

塚田こども医院「心の相談室」

かけするなど目配りを欠かしません。筑波大教育学部卒業後、上越教育大大学院を修了。児童相談所などでの実務を経ています。

相談を受け、まず客観的に問題を整理。対処方法や専門治療の必要性も含め、道すじをアドバイスします。健康保険外の自由診療で初回二千元、二回目以降千円は一般的に見ても低価格です。

一番のメリットは利用しやすいです。風邪でかかる場所と同じですが、小児科診察室とは

別階に独立し、プライバシーも守られます。カルテを見るのは院長と担当者の野村さんだけです。

お絵かきなど、遊びを一緒にしながら時間をかけて「話を聞いてくれる人がいるよ、とその子の安心を得て、抱える問題を聞いていきます。気軽に利用できることが地元地域で知られて広がっていく」と野村さん。

核家族の社会、夫は忙しく、子どもに起きた問題を自分の全責任と考えて自己否定に陥ってしまう「ママ」がいるのも、地元地域の現状の側面といえますが「社会が子育て世帯に働きかけるセーフティーネットの一つになれば。時間をかけ(関連機関との)人的ネットワークを築きたい」と塚田院長は話します。

問い合わせは同医院(電025・544・7777)へ。



対象にします。現在寄せられている中心は発達相談。ほかにもさまざまな問題行動、体調の変化や不調、不登校、おねしょ、不眠など、子育ての中で起



担当の野村さん(左)と塚田院長。プライバシーを守りながら相談に応じる